元気通信
GENKI-TSUSHIN

日本画で 仙北市芸術文化賞栄光賞受賞

山田美知男さん
（角館町上菅沢）

今年度の仙北市芸術文化賞栄光賞を受賞した山田さんは、再興第95回院展で入選した若手の日本画家。春の院展に向けて制作中の忙しい時間にお話しを伺いました。

「小さい時から絵や彫刻は好きでした。日本画に取り組むようになったのは、祭りの人形の顔に日本画の絵の具を使っているのを見てからですね。今、動物にはまっていて、今回は大森山動物園の『象』を描いています。何日も通い、写生に時間をかけています。現場を実感するのが大切ですね。何日も通っていると象と飼育係の人との関わりが見えてきます。一つの作品が仕上がるまで2～3カ月かかります。テーマが最後までぶれないと良い作品ができるような気がします」と作品づくりのこだわりについて話してくれました。

「院展」というのは、日本美術院主催の公募絵画展で、毎年4月上旬に行われる「春の院展」と9月上旬に行われる「再興院展」があります。

山田さんは、この院展に3回連続で入選しています。「春の院展は、秋の再興院展よりも出品サイズは小さいのですが、作家にとっては実践的な試みをする機会となっています。今回は、象の体の模様の描き方に工夫を凝らしているところです」と新しい作品に向かい合う意気込みを話してくれました。

クニマス世紀の発見記念特別展

杉山秀樹県立大学客員教授の講演会開催

昨年、山梨県西湖で70年ぶりに発見されたクニマスの標本が、2月11日から13日まで、田沢湖畔のハートハーブで展示され、期間中1700人が訪れました。

会場に展示されたクニマスの標本

県立大学客員教授
杉山教授

この標本は、京都大学総合博物館から借り受けたもので、会場には、田沢湖郷土史料館所有のクニマスの標本も2体展示されたほか、クニマス発見の経緯やかつてのクニマス漁に関する資料などが展示され、訪れた人たちは、興味深そうに見入っていました。

また、2月12日には、県立大学客員教授の杉山秀樹さんによる「クニマスとはどのような魚か」と題した講演がハートハーブで行われ、会場には220人が詰めかけ、熱心に聞き入っていました。

杉山さんは講演の中で、氷河期を繰り返す中でサケの仲間が田沢湖に陸封されクニマスとなったとされる説や田沢湖が潟尻川、桧木内川、雄物川を通過して日本海とつながっていたこと、1925年にクニマスが新種として登場したことなどを紹介。「70年前のクニマスが生存し、漁ができるような田沢湖を取り戻すことが夢。それにはクニマスの生態を調査することが必要」と話していました。

この後、市と田沢湖観光協会、漁業組合など14団体により、「田沢湖クニマス会議」が設立され、田沢湖の環境改善やクニマスの生態研究、クニマスを生かした観光振興などを進めて行くことにしています。

仙北市女性消防団員によるコラム

がんばる！ 女性消防団

今回は… 西宮三春さん

2月9日、秋田市で女性消防団ネットワーク会議が開かれ、県内の女性消防団員約60人が参加しました。

年に一度開催される勉強会・交流会で、三重県女性消防団員の方が「魅力ある防火啓発劇の取り組みについて」という演題で講演してくださいました。「自分たちにしかできない何かをしてみたい」そんな気持ちから防火啓発劇が生まれ、積極的に活動している事を知り、とても良い刺激になりました。少人数の私たちにも、独自で取り組める何かを見つけるため、色々勉強しています。

2月1日付けで一緒に頑張ってくれる方が入団しましたのでご紹介します。

はじめまして。女性消防団員の辻薫です。角館町在住の一児の母で、訪問介護の仕事をしています。

私が女性消防団に入ろうと思ったきっかけは、30歳を過ぎたら何か地域活動に参加しようと決めていた事、消防団の方々が毎年夏に日が暮れるまで大会の練習をしているのを見て、すごいな・・・と感心していた事、そこに女性消防団で活躍している方が声をかけてくれた事でした。同世代で仕事を持ち、家庭を持っている女性たちが頑張っている姿に心をうたれました。また、1月6日の出初め式を見に行きましたが、武家屋敷に整列した消防団員は迫力がありました。

まだ、入団したばかりですが、地域の防火・防災の為にお役に立てる様、務めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

辻 薫